

座談会

平成3年7月20日(土) 於横浜 六角 勉様宅にて座談会開催。出席者下記の通り。

加賀 幹雄 (昭和19年卒)
吹野家寿吉 (昭和21年卒)
三橋 公夫 (昭和24年卒)
天木 王文 (昭和25年卒)
加藤 慶郎 (昭和26年卒)
橋本 公雄 (昭和26年卒)
司会/進行：六角 勉 (昭和24年卒)
他に中村 頼人 (昭和31年卒) が出席。



平成3年7月20日 六角宅にて

六角 日本バドミントン協会の40年史を見ても、YMCA、YCACの記録、又岩波書店から出ているバドミントンの歴史を見ても、慶応のことなど一切書かれていません。書かれているのは、広田さん(横浜YMCA主事、昭和28年卒広田敏秀君の父)の極く一部の人に渡した遺稿の中に慶応の人の名前が出てくる程度であり、この50周年の機会にはつきりしておかなければなりません。特に慶応は他の大学と異なり、突如として出来たものではなく、この年表の通り佐藤さん、山本さん、加賀さん、諸岡さん、森友さんたちが昭和14年頃からやり出し、昭和17年に正式の部となり、日本バドミントンの歩みと慶応の部が出来たのが本当に一体となっています。

この際部の歴史をはつきり作っておく為にも、加賀さんから昭和14年から昭和17年頃の部が出来た間のお話をして頂きたいと思えます。

加賀 北海道の佐藤君(昭和19年卒)がいて、彼と僕でかなり色んな事が出てくると思いますが、一応プライベートなことも含めて

話します。

昭和14年入学式の帰り、僕は横浜に住んでいたもので、横浜までの電車の中で一緒のクラスの方がおり、話しかけたのが山本(昭和19年卒故人)であった。どこに住んでいるのか聞いたところ、じつは横浜YMCAの寄宿舎にいるということであり、一度遊びに来ないかというので尋ねた。その寄宿舎に佐藤保君(昭和19年卒)がいた。最初のうちはバドミントンと何の関係なくYMCAに遊びに行っていた。その頃YMCAの体育主事であった広田先生(広田君の父)が佐藤と山本と僕と、医学部に行っていた寿さん(満州国〈現中国東北部〉の人)にバドミントンをやらないかとすすめられた。

その時すでに兵藤さんとデブマーク体操をやっていた若い人がバドミントンをやっていた。それから毎日の様にYMCAに行ったが、最初の頃は殆ど遊びであり、たゞ一緒にプレイーをしていただけに過ぎない。

僕が本格的にはじめたのは昭和15年頃と思う。寄宿舎の山本君のところを根城にし、夕

食を食べに行き、帰ってきてからバドミントンをやり風呂に入って帰る日課であり、帰宅するのは10時であった。

その後昭和17年に正式に部を創ることになり、予科の経済E組の者が中心となり、又吹野君、六角君、橋本君（戦死）が集った。

最初横浜YMCAでやっていたが、東京の部員が多くなったので、広田さんの世話で東京YMCAと2ヶ所で練習をし、これが慶応バドミントン部第一歩が標されたこととなる。試合の記憶としては、ナルトとYCACとであり、後に古河、コロンビアが入ったと思うが、とにかく学生では慶応だけであった。当時バドミントンは社会的に知られておらず、このラケットで何をやるのかと聞かれたものであります。

昭和14年頃はラケットは木であったが、昭和16年頃は竹だった。山本君はうしろの方でジャンピングスマッシュが上手であり、又佐藤君はスキーをやっていたので、運動神経が発達しており、大変上手でした。

佐藤が一番強く、山本君僕の順であり、その後森友が入ってきたが森友には勝ったと思う。

六角 吹野さん、入部の経緯を話してください。

吹野 山本さんのいとこの津川君が同級におり、横浜YMCAにいたのでよく遊びに行っていた。そこで津川君がバドミントンをやるとうとうのでやり始めたのです。昭和15年頃のことと思いますが、横浜YMCAでやっていた印象が強いです。

その後昭和18年に学徒出陣で兵隊に行き終戦で昭和20年9月に復員したが食べるものがなく、運動部どころではなかった。

20年10月に三田の山に行き学部の4年に編

入し、21年9月に卒業したが、そんな訳で戦後すぐには部の方には、生活自体が大変だったのあまり関係していません。

六角 昭和21年春、僕が第1回の練習しようと呼びかけたとき、加賀さんも吹野さんも来てくれていますよ。

その前に昭和20年の秋に三田の山で森友さんにバツタリと会った。その時森友さんに僕が「バドミントンをやりましょうよ。」といった。

後で森友さんにビックリしたよといわれました。

東京、横浜の両YMCAが米軍に接収された他の場所は焼けて練習するところがなかった。仕方なく広田さんを尋ねたところ、早速自宅前の平楽小学校を借りて貰うことが出来ました。これが慶応の戦後最初の練習です。

港中学校で正式に練習が始まったのは昭和21年6月であります。

六角 それでは次に三橋さんからよろしくお願いします。

三橋 昭和20年暮兵隊から帰ってきて、中学の同級生の六角君の生麦の家を尋ねた。

そこで六角君から熱心にバドミントンの入部をすゝめられ、その熱心さに負けました。

横浜YMCAの体育所である、港中学の体育館での練習では、ガラスが破れており、風が吹き込んで羽根がとんでもない状態でした。

その頃米軍進駐軍のアルバイトをやっていた、時間がなくあまり練習に出られなかった。熱心さでは六角くんの足下にも及ばなかった。

学校の接渉、先生方との接渉、先輩方との接渉と、よくやりました。マナーージャーをやれといわれ、部員も少なく、皆んなをさそ

ったがなかなか集まらなかったです。

よく六角くんと2人でセルロイドの下敷を切って羽根の代りとしたが、セルロイドが重いのので一回打つとすっとなでしまい大変苦労しました。

六角 その次に藤井君の入られたのは昭和21年の夏じゃなかったかな。加賀さんから僕の友達が生徒がいると聞いた。

藤井 僕は冬箱根に行き、雪が降り寒さを我慢し一夜を過ごしたのが原因で病気になる、半年間休学をした。その時先輩の池田さんが勉強を教えてくださいました。池田さんの紹介でバドミントンをやることとなりました。

加賀 池田は僕と同クラスであり、運動やらせるなら、バドミントンがいいだろうと、それで横浜YMCAに連れてきた。

六角 藤井君が横浜YMCAに来たのは良く覚えていますよ。あれからあつという間に強くなり、YMCAのNo.1を負かしてしまい、第1回の全日本、それからの大会を広田君と組んで優勝し、2人の名前は常に出てくる。しかし蔭では大変努力をしていたんだね。

しかし良くあの食糧難の時代に、あの強いスラッシュが出たものと感心しました。

藤井 広田さん(広田君の父)が熱心に指導してくれましたお蔭であり、又加賀さん、六角さんにも指導していただいたお蔭ですよ。

加賀 広田君はバドミントンを見て育った様なものですよ。小さい頃からお父さんに連れられてバドミントンの試合を見に来ていた。六角 それじゃ次に静岡から出席された名プレイヤーの加藤君お願いします。

加藤 昭和21年部員募集のポスターを見て入ったのです。なぜポスターを見て入ったかといひますと、幼稚園の頃同級生の家に遊びに行き、そこではじめてバドミントンのラケット

トを見ました。それはジャワに行った人がおみやげに買ってくれたものだったのでした。たしか昭和14年頃のことと記憶します。誰かにポスターのことで連絡したら横浜YMCAに行きなさいといわれ、横浜に行き練習しました。そのうち横浜YMCAが使えなくなり、コート探しをすることとなりました。そこで幼稚園に行き借りようと恐る恐る話してみた。なんとか借りることが出来ました。最初のうちは体育館に白墨で線を引いてやっていましたが、線を引いても良いと許可が出、正規の白線を引くことが出来ました。昭和24年頃と思いますが、関東学連のリーグ戦が幼稚園で行われ、その結果が日刊スポーツにのりました。

六角 昭和21年、22年頃試合が終ると日刊スポーツと毎日新聞に記録をのせてくださいと頼みに行きました。毎日新聞ではバドミントン部を作ろうとしていたので好意的でした。藤井 毎日新聞では毎日スポーツというのを出しており、その表紙に写真がのった記憶があります。

加藤 関東リーグ戦が始まり、藤井さんと組んでダブルスに出ましたが、僕は殆んど動かず、藤井さん1人でやってくれ、シングルとダブルスをやっている様であり、試合には勝っていました。

六角 さて天木さん、あなたに会うのは久しぶりですね。前回あなたに会ったのは石井君のお通夜(昭和63年6月29日)に会いピツクリしました。

実は昭和21年4月頃家の前を通った見知らぬ慶応の学生青木君(天木君の友達)をつかまえて家の上って貰った。そこでバドミントンを知っているかと聞き、知らなくてもいいから友達を連れて来てくれと頼み、その時天

りますが、今日話の出来なかつたことは原稿にまとめられお送りください。

木君他数人が一緒に来てくれた。

天木 六角さんは熱心が度を越して、強制的というか感心したものですね。

当時学校が日吉であり、横浜を通過して帰宅するのでYMCAに寄ってみました。早速そこでつかまり、そして入部を説得され入部しました。

六角 よく鶉の羽根をもって来てくれましたね。

天木 あれは石井ですよ。石井は葉山だから近所の農家の鶉の羽根をとってきた。とにかく羽根をさすか仲々それが揃わず大変でした。

イレギュラーし力まかせに打つと抜けてしまいました。

六角 葉山の合宿はどういう経緯で搜してくれたの。

天木 六角さんからの話で合宿をやるうと石井と相談し、三菱(菱和会)の寮を借りることが出来た。あの寮を管理していたのは一色の酒屋さんであり、石井は顔がきいており、酒屋の息子が友達だったので借りることが出来ました。とにかく食べるものが大変でした。吹野 僕が一番憶えているのは奥井さんの住んでいたいま言う葉山の合宿であります。

橋本 僕も葉山の合宿には参加していません。そして奥井先生の家に芋を貰いに行った記憶があります。

僕は東京YMCAではじめてバドミントンというものを知り、やはり遊びのつもりでやっています。当時新橋の近くの小学校で慶応と試合をし、その強さにびっくりしました。田町駅でバドミントンのラケットを持っていくというので、中沢君に声をかけられ、入部し天現寺の練習に参加しました。

六角 有難うございます。これで座談会を終